

バヒアグラスの消化試験（羊）について

川 関 巖・甲斐光夫

(九州農業試験場)

KAWASEKI, I. and KAI, M.

The Digestibility and Nutritive Value of Bahiagrass

バヒアグラスの消化試験成績は極めて少ないので、2ヶ年にわたり計6回の消化試験を行ない、主として盛夏期および秋の利用限界について検討した。

方 法

供試料の概要を第1表に示したが、1963年には多雨年で肥培管理不良のため、本来の草生を得られず、2回の刈取に終わった。1964年には2、3、5番刈について消化試験を行なった。2～3才の羊2～3頭を供試し、バヒアグラスを単味給与し、常法により行なった。

成績および考察

成績は第2表、第3表に示した通りである。7月上旬～9月上旬には、舎内の日最高気温が30°Cを越える日が続き、採食量に日々差が若干認められたが、採食、消化とも良好であった。第2年目草地で、粗蛋白

質の消化率が低く、個体差がやや大であったが、多雨、肥培不足による草生不良の影響か¹⁾と思われる。

乾物量、DCP、TDNは、Morrison²⁾の成分表(消化試験によらない概算値)では、それぞれ30.1、1.1、15.9であり、乾物量、TDNが劣りDCPは勝っているが、草丈50～70cmの若刈を行つたためであろう。

摘 要

盛夏期には採食量に日々差が若干認められたが、採食、消化とも良好であった。秋の利用限界は収量から見て、9月末頃かと思われる。

参 考 文 献

1) Merchant, W. H. & Stephens J. L. : Bahiagrass for Pastures. Georgia Ag. Exp. Sta. Bul. N. S. 67. p. 18. Fed. '60.

2) Morrison, F. B. : Feeds and Feeding. 1959.

第1表 供 試 試 料 の 概 要

年次別	刈取時別	刈取時期	前回刈取 よりの日数	草丈 cm	収 量 kg/10 a	一 般 成 分 組 成					
						水 分	粗蛋白質	粗脂肪	可溶無 窒素物	粗纖維	粗灰分
(1) 第5年 播目	I	6月中旬	—	80	2,300	76.0	2.5	0.7	9.4	9.3	2.1
	II	7 上	16~25	70	1,400	76.4	2.6	0.8	10.8	7.8	1.6
	III	7 中	14	50	700	79.1	2.7	0.7	8.4	7.3	1.8
	IV	8 中	16	70	2,100	76.4	2.4	0.7	10.2	8.3	2.0
	V	9 上	23	60	800	78.3	2.2	0.6	9.5	7.6	1.8
	年間計		—	—	7,300	—	—	—	—	—	—
(2) 第2年 散第目	I	7 下	—	—	2,200	75.5	1.8	0.6	12.4	7.9	1.8
	II	11 上	—	—	160	66.9	3.3	0.7	15.7	9.8	3.6
	年間計		—	—	2,360	—	—	—	—	—	—

注) (1) 採種圃場で畦間1.5m, 土地利用率50%のもの換算収量

(2) 和牛放牧試験地の番外区

第2表 採 食 量, 消 化 率

試 験 期 別	採 食 量 g	採 食 率 %	採食量/体重 %	消 化 率				
				粗蛋白質	粗脂肪	可溶無窒素物	粗纖維	
第5年目	II	3,530	* 88.8	7.1	70	70	69	* 64
	III	2,851	95.3	5.4	75	72	65	80
	V	3,275	* 86.1	6.3	62	61	56	71
第2年目	I	5,800	94.7	9.3	* 54	72	60	68
	II	4,011	89.1	6.3	* 54	54	56	68
	II(乾草)	1,263	90.2	1.8	55	63	57	70

注) 2頭又はは3頭の平均値, *印は個体差やや大

第3表 乾 物 量, 可 消 化 成 分 量

試 験 期 別	刈取時期	乾 物 量	可 消 化 成 分 量				T D N	
			粗蛋白質	粗脂肪	可溶無窒素物	粗纖維		
第5年目	2番刈	7月上旬	23.6	1.8	0.6	7.5	5.0	15.7
	3番刈	7 中	20.9	2.0	0.5	5.5	5.9	14.5
	5番刈	9 上	21.7	1.4	0.4	5.3	5.4	13.0
第2年目	1番刈	7 下	24.5	1.0	0.4	7.4	5.4	14.7
	2番刈	11 上	33.1	1.7	0.4	8.8	6.7	18.1
	2番刈(乾草)	〃	88.8	5.2	1.2	24.2	17.7	69.8